

平成29年度行政事業レビューシート ( 厚生労働省 )

事業名	アジア太平洋地域人材養成協力事業			担当部局庁	人材開発統括官室		作成責任者		
事業開始年度	平成8年度	事業終了 (予定)年度	平成28年度	担当課室	海外協力室		海外協力企画官(海外協力室長) 西田 和史		
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する計画、 通知等	日ASEAN行動計画、APEC人材養成枠組宣言、APEC人材養成大臣会合共同宣言				
主要政策・施策	ODA			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	ASEAN及びAPECというアジアにおける国際的な枠組みを活用して当該地域の人材養成分野の協力を実施することにより、開発途上国の職業能力開発分野の底上げを図るとともに、各国の自律的な取組を促進し、貧困削減・持続的成長(人づくり)に資することを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	1 ASEAN事業: ASEAN事務局と連携し、ASEAN統合に向けた職業能力開発分野での官民に対する研修を実施するとともに、ASEAN諸国に対する我が国の職業能力評価基準の提供及び技術会合を通じた職業能力評価基準の作成協力等を実施。 2 APEC事業: APEC域内開発途上国の現地日系企業の研修施設等を活用し、現地の地域住民に対して、基礎的な技術、技能を修得させるための技能研修事業を実施。								
実施方法	直接実施、委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求			
		当初予算	62	55	38	0	0		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計	62	55	38	0	0			
	執行額	62	55	23					
執行率(%)	100%	100%	61%						
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	100%	100%	61%						
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由					
	計	0	0						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	ASEAN研修に参加した者の上司に評価を尋ね、研修の成果を活用したとする回答が90%以上の割合とする。	ASEAN研修に参加した者の上司に評価を尋ね、研修の成果を活用したとする回答の割合。	成果実績	%	100	100	100	-	-
			目標値	%	90	90	90	-	90
			達成度	%	111	111	111	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	ASEAN研修におけるアンケート結果								
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	APEC研修に参加者に評価を尋ね、研修の成果を活用したとする回答が90%以上の割合とする。	APEC研修の参加者に評価を尋ね、研修の成果を活用したとする回答の割合。	成果実績	%	96	100	100	-	100
			目標値	%	90	90	90	-	90
			達成度	%	107	111	111	-	111
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	APEC研修におけるアンケート結果								

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込
	ASEAN研修現地国セミナー回数	活動実績	回	4	4	4	-	-
		当初見込み	回	4	4	4	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込
	APEC研修回数	活動実績	回	3	3	3	-	-
		当初見込み	回	3	3	3	-	-
単位当たりコスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	
	単位当たりコスト X:「ASEAN研修現地国セミナー」 Y:「回数」	単位当たりコスト	千円	814	743	742	-	
		計算式	X/Y		3255/4	2970/4	2969/4	-

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策評価	政策	国際社会への参画・貢献を行うこと(XI-1)						
		施策	開発途上国の人材養成等を通じた国際協力を推進し、連携を強化すること(XI-1-2)						
	測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 -年度	目標年度 -年度
		-	実績値	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)				
		-	-	-	施策の進捗状況(実績)				
		-	-	-	-				
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	<p>① ASEAN事業: ASEAN統合に資するべく、開発に遅れのあるカンボジア、ラオス、ミャンマー及びベトナムの官民関係者を対象に、日本とASEAN中進国(インドネシア、マレーシア、フィリピン及びタイ)における職業能力開発制度を学ぶための研修を、日本とASEAN中進国と合同で実施する。その後、研修参加者が自国内において合同研修の成果を普及するためのセミナーを実施する。</p> <p>② APEC事業: APEC域内開発途上国の現地日系企業の研修施設等を活用し、現地の地域住民に対して、基礎的な技術、技能を修得させるための技能研修事業を実施する。</p> <p>上記によりASEAN、APEC等の枠組みを生かしつつ、協力対象国の能力開発システムの構築・改善、被援助国の卒業促進、官民協力の促進等を図る。</p>								

経済・財政再生アクション・プログラム	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 -年度	28年度	29年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度
		-	成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
	(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 -年度	28年度	29年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度
		-	成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
		達成度	%	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と改革項目・KPIとの関係								

**事業所管部局による点検・改善**

国費投入の必要性	項目	評価	評価に関する説明
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	アジア太平洋地域における人材養成分野での協力ニーズは増大かつ多様化しつつある。本事業はこれに対応するための国際協力を実施するものであり、国費を投入する必要がある。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、ODAによる開発途上国への国際協力であり、国で実施すべき事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	東南アジア諸国連合(ASEAN)の統合に際し人材養成分野での日・アセアン協力が首脳会合及び労働大臣会合で要請されるなど、高いレベルでの協力が求められており、本事業はこれに対応するための事業である。

事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	一般競争入札(最低価格落札方式)により、委託先を選定している。 一社応札ではあったが、説明会には複数者が参加した。平成28年度の事業委託に当たっては、応札し難い要因等について、説明参加者等にアンケートを行い把握し、より競争性の高い入札となるよう改善を図っているところ。			
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有				
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無				
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	単位当たりのコストについては、研修に参加する者の航空運賃見直し等により削減に努めている。			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	費目・使途については、研修費用等に限定されている。			
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	一般競争入札の結果、不用額が大きくなったものである。				
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-				
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-				
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	ASEAN研修参加者の上司が研修成果を活用したとする回答割合が111%、APEC研修参加者が研修成果を活用したとする回答割合も111%と、いずれも成果目標の90%を上回っており、成果実績は成果目標に見合ったものとなっている。			
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	成果目標を着実に達成し、その度合いも適正である。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	本事業を実施することにより、日本の職業能力開発評価基準が対象国へ普及するなど、本事業の実施結果が対象国の職業能力開発行動計画等に寄与している。			
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-			
	所管府省名	事業番号		事業名		
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年度ごとに、事業の効果的な実施に向け、実施テーマの選定及びその予算配分についてILOとの協議を行い、事業報告と会計報告を併せて受けている。</li> <li>平成27年度～29年度は環境保護に資するグリーンジョブをテーマとして取り上げた。アジア太平洋地域諸国が抱える課題テーマであるとともに、ワークショップでの各国の取組の発表等を通じて、日本及びアジア太平洋地域諸国双方が裨益する事業が実施されていると判断することができる。</li> </ul>				
	改善の方向性	当初予定どおり事業を終了し、引き続きILOを通じた職業訓練分野での技術協力の推進に努めていく。				
<b>外部有識者の所見</b>						
点検対象外						
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>						
終了予定	事業は当初の予定どおりの成果を達成したため、平成28年度をもって終了すること。					
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>						
予定通り終了	平成28年度で終了した。					
<b>備考</b>						
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>						
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	
平成25年度	新25-054	平成26年度	609	平成27年度	614	
平成28年度	827					

